



発行日：令和7年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第17回海部会まとめの会を開催しました！

第17回海部会まとめの会では、第15期の振り返りと第16期の活動目標、三河湾の栄養塩不足を多くの流域市民の方に知っていただくために作成した動画の内容について意見交換を行いました。

日時：令和7年10月23日（木） 14:00～16:00

場所：西尾市中央ふれあいセンター

参加人数：17名 ＊事務局を含む



### ◆主な会議内容

#### 1. 第15期の振り返り

第15期の活動として下記に示す取り組みを実施しました。

- ・ 市民部会・海部会合同WG 市民部会と海の栄養塩不足や干潟・浅場造成事業などについて情報共有・意見交換
- ・ 第56回海部会WG 伊勢湾・三河湾の現状、流域市民への発信方法について情報共有・意見交換
- ・ 三河湾の栄養塩不足に関する漁業関係者などへのインタビュー動画の作成
- ・ 第12回三河湾大感謝祭 活動紹介、動画の公開、ステージイベント

#### 2. 第16期の活動目標

WG参加者で活動目標について議論し、下記内容で進めることを確認しました。

##### テーマ①：豊かな海の再生に向けた取り組み

- ・ 海の栄養塩不足に関する流域内で取り組まれている対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）の情報共有および意見交換を行う。
- ・ 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- ・ 外部団体（伊勢湾再生海域検討会、伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会等）と交流・情報共有する。

##### テーマ②：海と人との絆再生

- ・ 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。
- ・ 三河湾大感謝祭などの地域イベントへの参加や海の生物に関心のある方が多い水族館や博物館との連携を通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
- ・ 地域の課題等を情報交換することを目的にフィールドワーク（海の博物館の見学、アマモ等の植生体験、アサリの潮干狩り、魚釣り体験等）を実施する。
- ・ 海の現状や問題に関する動画をインターネット上で共有し、広く周知する。

##### テーマ③：ごみの問題

- ・ 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。

##### テーマ④：土砂の問題

- ・ 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。
- ・ 出水に伴う土砂流出に関する意見交換・情報共有する。

#### 3. 三河湾の栄養塩不足に関する動画について

三河湾の現状を多くの流域市民の方に知っていただくため、海苔・アサリの生産者の方へのインタビューや座長 青木氏、副座長 鈴木氏の解説をまとめた動画を作成しました。作成した動画は三河湾大感謝祭で公開しました。今後は、より包括的な情報を発信できるように追加のインタビューなどを実施し、より多くの方に見ていただくため、地域イベントに限らず、インターネット上での公開も予定しております。※現在はYouTubeにて公開しています。



動画URL

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ● 第15期の振り返り・第16期の活動目標

- ・ アサリなどの二枚貝については、窒素、リンだけでなく、珪藻などの微細藻類が形成するシリカが重要であることを市民部会・海部会合同WG(R7.2.13)にて発言しているため、今期の活動実績の資料に追加して欲しい。また、珪藻の栄養となるケイ酸塩は、山の湧水の中に多く含まれているが、山の荒廃による湧水が減少すると海の貧栄養化につながる。そのため、海部会と山部会が連携して考えていく姿勢が必要である。(井上)
  - ▶ 今期の活動実績の資料に意見の追加を行う。(事務局補佐)
  - ▶ 海苔は植物であるため栄養塩を直接吸収することができるが、アサリなどの二枚貝については、栄養塩を直接吸収することができず、餌となる珪藻から吸収するため、窒素、リンだけでなく珪藻にはケイ酸塩が必要である。メカニズムや対策が海苔とアサリで異なる。(戸田)
- ・ テーマの一つである「海と人との絆再生」について、関心や体験がない人に対してはフィールドワークが最も良いと考える。フィールドワークの案として、アサリや魚が獲れない現状を知るためにアサリの潮干狩りや魚釣り体験を行うことが考えられる。実施が難しい場合には、まず海の生物に関心のある人が多い水族館や博物館との連携をして、情報を発信するのが良いと考える。(戸田)
  - ▶ 佐久島のアマモの植生体験は「豊かな海の再生に向けた取り組み」や「海と人との絆再生」につながるため、フィールドワークの案として考えられる。(井上)
  - ▶ フィールドワークの実現に向けては明確な計画を立てるべきである。現地に行って学ぶというよりは、地元や水産試験場の方々と情報交換をすることを目的とすることが重要である。(近藤)
- ・ 三河湾の栄養塩不足に関する動画について、三河湾大感謝祭での動画公開では、見ていただける方は限定的であったため、インターネット上で公開するなど活用の検討が必要である。(青木)
- ・ 話題提供であるが、航路泊地に硫化水素がたまり三河湾のアサリに影響を与えているという話がある。(井上)
  - ▶ 秋ごろの水温変化や風の影響により、航路泊地や浚渫くぼ地にたまった硫化水素や貧酸素が浅いところに流れることで、アサリなどの生物が死んでしまうことがある。改善策として浚渫くぼ地を埋め戻しや貧酸素などの水質改善策として干潟・浅場造成事業が進められている。(谷川)

### ● 三河湾の栄養塩不足に関する動画について

- ・ 西三河漁業協同組合の海苔生産者へのインタビューの結果、海苔生産者の軒数の減少により漁場が空いていることや下水道の管理運転などにより、現在は品質の良い海苔が作れているとの話があった。矢作川の河口から近い西三河地区は下水道の管理運転の効果が表れているが、河口から離れた地区では栄養塩が不足し、三河湾全体の海苔生産量は減少していることが考えられる。そのため、副座長 鈴木氏と相談した結果、他の地区の海苔生産者への追加インタビューを行い、三河湾全体の状況を伝える内容にしてはどうかとアドバイスをいただいた。(事務局補佐)
  - ▶ インタビューに同行したが、海苔生産者の軒数について、全盛期は約200軒あったが現在は約4軒に減少しているとのことであった。(鈴木(建))
- ・ インタビューの中で、アサリやアイナメなどの魚は、現在ほとんど獲れていない状況であると話があった。インタビューにご同行いただいた鈴木(建)氏と相談した結果、アサリや魚の漁師などへの追加インタビューを検討してはと考えている。(事務局補佐)
  - ▶ 冬は海苔、夏はアサリで生計を立てていたが、アサリの不漁により夏は農業をしているとの話があった。また、海水温の上昇により、藻場の位置や魚の種類に変化が起きているとの話があった。(鈴木(建))
  - ▶ 3年前くらいから、吉田漁業協同組合でもアサリが獲れないとの話があった。(鬼頭)
- ・ 今回作成した動画については、インターネット上で公開する予定である。(事務局補佐)
  - ▶ 動画内の字幕については精査してからの公開が望ましい。(戸田)
  - ▶ 全体会議でも公開するなど他の部会にも共有するべきである。(近藤)



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課 TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

